

・3月になりました、少しずつ寒さが和らいできていますね。少しずつ春の訪れを感じられる季節になりました。

## ◎健康診断結果の見方

共通の言語を持たない人と動物のコミュニケーションです。

飼い主さんとの対話や、日ごろからの観察、定期的な健康診断など、動物の健康を良い状態に保つためには多角的なケアが必要になります。検査はあくまでも、病気を確認するための道具のひとつです。検査結果を受け取ってほっとしたり、ドキッとしたりします。健康診断結果は、通信簿みたいなものです。数字の羅列がいっぱいでもちょっとわかりにくいかもしれませんが、各項目の見方がわかれば、飼い主さんもより伴侶がどのような状況かを理解できると思います。下記の項目を参考にしてください。

・血液検査は、大きく下記の2種類に分かれます。

### ① 生化学検査

② 一般血液検査：CBC があります。

まずは、〈生化学検査〉です。

●**総蛋白** 血液中にあるタンパク質の量を計ります。アミノ酸は肝臓でアルブミンとグロブリンに再合成されます。

基準値：犬 5.1～6.9 猫 5.4～9.2 (g/dl)

・高い場合・・・脱水症、高タンパク血症、骨髄腫

・低い場合・・・栄養不足、低タンパク血症

●**アルブミン** 血液中を流れるタンパク質の成分。

アルブミンの量は加齢などでも減少します。

基準値：犬 2.6～4.2 猫 2.5～4.5 (g/dl)

・低い場合・・・加齢による影響、栄養不足、ネフローゼ

●**A/G(アルブミン/グロブリン)比** A/G 比を測ることによって、肝障害、ネフローゼ症候群、悪性腫瘍などの可能性を探ることができます。

基準値：犬 0.6～1.7 猫 0.4～1.6

・低い場合・・・遺伝による影響、骨髄腫

●**尿素窒素** 体内でタンパク質を使い終わったときに発生する物質。90%程度が腎臓経由で尿から排出され、血液中には微量の尿素窒素のみが存在しています。

基準値：犬 8.2～33.8 猫 16.3～42.0 (mg/dl)

・高い場合・・・急性腎炎、慢性腎炎、腎臓結石、腎硬化症

●**クレアチニン** 筋肉を動かすときに出てくる老廃物。

腎機能が衰えると、クレアチニンが尿ではなく血液に戻されてしまいます。

基準値：犬 0.40～1.60 猫 0.60～2.60 (mg/dl)

・高い場合・・・急性腎炎、慢性腎炎、腎盂腎炎、腎臓結石、腎硬化症、腎不全、腎臓がんなど

●**総コレステロール** 肝臓で生成され、血管やホルモン、消化酵素の胆汁酸の原料になります。脂質代謝の異常を知る指標です。

基準値：犬 105～355 猫 81～239 (mg/dl)

・高い場合・・・甲状腺機能低下、胆汁うっ滞

・低い場合・・・栄養失調、肝臓障害、ホルモン性疾患

●**中性脂肪** 体を動かすエネルギーとして使われています。

基準値：犬 20～121 猫 6～138 (mg/dl)

・高い場合・・・肥満、脂肪肝、肝機能障害

・低い場合・・・副腎皮質機能低下症、栄養失調、

●**総ビリルビン** 血液を循環する黄色の色素。赤血球やコレステロールが壊れたときに出る物質。

基準値：犬 0.00～0.3 猫 0.00～0.3 (mg/dl)

・高い場合・・・溶血、胆汁うっ滞、肝機能障害、胆管閉塞

●**AST(GOT)** 肝臓は、代謝・排出・解毒において重要な役割を担っています。

基準値：犬 13～65 猫 14～78 (IU/l)

・高い場合・・・心筋炎、肝障害、筋炎

●**ALT(GPT)** 肝臓に特化して存在する酵素で肝機能が鈍ると、値が上昇する特徴があります。

基準値:犬 13~77 猫 21~124(IU/ℓ)

・高い場合・・・肝炎、肝硬変、胆嚢胆管炎、肝細胞壊死、薬物、中毒、腫瘍など)、急性膵炎

●**ALP(アルカリフォスファターゼ)** 肝臓、骨(骨芽細胞)、腸管粘膜、胎盤などに高濃度に含まれている酵素。

基準値:犬 23~360 猫 20~342(IU/ℓ)

・高い場合・・・骨の成長期、胆汁うっ滞・胆管炎、胆道閉塞、肝臓障害、骨疾患、腫瘍

●**γ-GTP** 肝臓の細胞にある酵素。

基準値:犬 0~8.0 猫 0~5.0(IU/ℓ)

・高い場合・・・肝機能障害、胆管閉塞、胆管系の疾病など

●**総胆汁酸** 肝細胞で特異的に産生される物質。

基準値:犬 0.0~5.0 猫 0.0~5.0( $\mu$  mol/ ℓ)

・高い場合・・・肝不全、門脈体循環シャント

●**アミラーゼ** 膵臓から分泌。でんぷんを分解する消化酵素。

基準値:犬 334~1454 猫 692~2733(IU/ℓ)

・高い場合・・・急性膵炎、慢性膵炎、膵のう胞  
・低い場合・・・慢性膵炎、糖尿病、肝硬変

●**リパーゼ** 膵臓から分泌。脂肪を分解する消化酵素。

基準値:犬 17~240 猫 11~189(IU/ℓ)

・高い場合・・・膵臓の炎症

●**血糖** 血液の中にある糖の量を示しています。

基準値:犬 63~118 猫 65~166(mg/dl)

・高い場合・・・糖尿病、急性膵炎  
・低い場合・・・栄養不足、高インスリン血症

●**糖化アルブミン** タンパク質の一種であるアルブミンが糖化されたもの。糖尿病の病状を検査するもので、2週間前から採血時までの平均血糖状を反映されます。

基準値:犬 8.8~14.5 猫 6.7~16.1(%)

・高い場合・・・糖尿病、急性膵炎、甲状腺機能亢進症

●**ナトリウム** 主に腎臓の状態、脱水症や浮腫を調べる。

基準値:犬 134~153 猫 144~156(mEq/ℓ)

・高い場合・・・脱水、尿崩症、糖尿病  
・低い場合・・・慢性膵炎、糖尿病、肝硬変

●**クロール** ナトリウムの変化によって受動的に吸収、排泄、分配されます。

基準値:犬 105~118 猫 119~132(mEq/ℓ)

・高い場合・・・脱水  
・低い場合・・・嘔吐、腎不全、副腎皮質機能亢進症

●**カリウム** 神経の興奮や心筋(心臓の筋肉)の働きを助ける

基準値:犬 3.4~5.6 猫 3.5~5.2(mEq/ℓ)

・高い場合・・・腎不全、尿道閉塞、脱水、副腎皮質機能低下症  
・低い場合・・・飢餓、循環器不全、腎不全

●**カルシウム** 99%は骨にありますが、のこり約1%は血液中に存在し、筋運動、止血、神経活動などに関与しています。

基準値:犬 8.5~12.2 猫 7.8~12.1 (mg/dl)

・高い場合・・・副腎皮質機能低下症 腎不全、骨腫瘍  
・低い場合・・・ビタミンD 欠乏症、低タンパク血症、腎臓疾患

●**無機リン** カルシウムと同様に骨ミネラルの重要成分です

基準値:犬 2.1~6.5 猫 2.4~8.2(mg/dl)

・高い場合・・・副甲状腺機能低下症、腎不全  
・低い場合・・・ビタミンD欠乏症、副甲状腺機能亢進症

●**CRP(C反応性タンパク)(イヌ)** 感染や組織傷害などに反応して、短時間の間に血中濃度が変動するタンパクです。

基準値:犬 0.0~1.40(mg/dl)

・高い場合・・・感染症、関節炎、膵炎

●**SAA(血清アミロイド)(ネコ)** イヌと同様に炎症のマーカーです。

基準値:猫 0.0~2.0( $\mu$  g/ dl)

・高い場合・・・急性膵炎、胆管炎、胃腸炎、腫瘍